

---

中央大学大学院 過去問題集

**経済学研究科**

2026 年度入試

---

一般入試

外国人留学生入試

社会人特別入試

行動する知性。

 **中央大学**

# 経済学研究科 博士前期課程・博士後期課程

○印：出題があり掲載している科目

◎印：過年度（過去3年間）に出題があり、過年度の問題集に掲載している科目

■印で示した試験問題等は、相当期間前（5～10年程度前）に実施した入学者選抜に係るものであり、現在の入学者選抜における位置づけや大学院教育に求められる内容の変化等を踏まえ、これらを補足なく直ちに掲載した場合、現在の選抜方針と乖離が生じる可能性があります。受験生の皆さんに誤解が生じないよう、現時点では■印に関する試験問題等の掲載は行わず、まずは2025年度に当該研究科の入学者選抜を実施していない旨を明示し公表いたします。

その上で、過去の試験情報の位置づけや現在の選抜方針との関係が受験生に適切に伝わるよう、必要な注記や説明の付し方を含めた公表方法を整理し、準備が整い次第、順次公表いたします。

なお、著作物からの引用箇所は、著作権の関係から非公開としております。

年度別掲載順	研究科	専攻	課程	科目名	入試方式	2026年度	ページ
1	経済学	経済学	博士前期	ミクロ経済学	一般入学試験（秋季）	○	1
2	経済学	経済学	博士前期	ミクロ経済学	外国人留学生入学試験（秋季）		
3	経済学	経済学	博士前期	ミクロ経済学	一般入学試験（春季）	○	
4	経済学	経済学	博士前期	ミクロ経済学	外国人留学生入学試験（春季）		
5	経済学	経済学	博士前期	マクロ経済学	一般入学試験（秋季）	○	3
6	経済学	経済学	博士前期	マクロ経済学	外国人留学生入学試験（秋季）		
7	経済学	経済学	博士前期	マクロ経済学	一般入学試験（春季）	○	
8	経済学	経済学	博士前期	マクロ経済学	外国人留学生入学試験（春季）		
9	経済学	経済学	博士前期	統計学・計量経済学	一般入学試験（秋季）	○	7
10	経済学	経済学	博士前期	統計学・計量経済学	外国人留学生入学試験（秋季）		
11	経済学	経済学	博士前期	統計学・計量経済学	一般入学試験（春季）	○	
12	経済学	経済学	博士前期	統計学・計量経済学	外国人留学生入学試験（春季）		
13	経済学	経済学	博士前期	ポリティカルエコノミー	一般入学試験（秋季）	○	17
14	経済学	経済学	博士前期	ポリティカルエコノミー	外国人留学生入学試験（秋季）		
15	経済学	経済学	博士前期	ポリティカルエコノミー	一般入学試験（春季）	■	
16	経済学	経済学	博士前期	ポリティカルエコノミー	外国人留学生入学試験（春季）		
17	経済学	経済学	博士前期	経済学史	一般入学試験（秋季）	◎	
18	経済学	経済学	博士前期	経済学史	外国人留学生入学試験（秋季）		
19	経済学	経済学	博士前期	経済学史	一般入学試験（春季）	○	18
20	経済学	経済学	博士前期	経済学史	外国人留学生入学試験（春季）		
21	経済学	経済学	博士前期	経済史	一般入学試験（秋季）	■	
22	経済学	経済学	博士前期	経済史	外国人留学生入学試験（秋季）		
23	経済学	経済学	博士前期	経済史	一般入学試験（春季）	◎	
24	経済学	経済学	博士前期	経済史	外国人留学生入学試験（春季）		
25	経済学	経済学	博士前期	会計学	一般入学試験（秋季）	◎	
26	経済学	経済学	博士前期	会計学	外国人留学生入学試験（秋季）		
27	経済学	経済学	博士前期	会計学	一般入学試験（春季）	◎	
28	経済学	経済学	博士前期	会計学	外国人留学生入学試験（春季）		
29	経済学	経済学	博士前期	経営学	一般入学試験（秋季）	■	
30	経済学	経済学	博士前期	経営学	外国人留学生入学試験（秋季）		
31	経済学	経済学	博士前期	経営学	一般入学試験（春季）	○	19
32	経済学	経済学	博士前期	経営学	外国人留学生入学試験（春季）		
33	経済学	経済学	博士前期	小論文	社会人特別入学試験	○	20
34	経済学	経済学	博士後期	英語	一般入学試験	○	22
35	経済学	経済学	博士後期	ドイツ語	一般入学試験	■	
36	経済学	経済学	博士後期	フランス語	一般入学試験	■	
37	経済学	経済学	博士後期	経済学	外国人留学生入学試験	○	23

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
秋季

科目名
ミクロ経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

※問題用紙は1枚、解答用紙は2枚です。

※解答する問題ごとに別の解答用紙を使用し、解答する問題番号を問題番号欄に記入すること。

I 次の2問すべてに日本語で解答しなさい。

1. 単一商品と貨幣からなる二財モデルを考え、消費者の商品の消費量を $x$ 、貨幣の消費量を $m$ と書く。貨幣の価格は1に正規化する。消費者の初期保有は $x = 0$ および $m = m^*$ とし、 $\bar{x} > 0$ の量の商品を一単位あたりの価格 $p$ で購入する取引を考える。ただし、 $m^*$ は十分高く、この取引で貨幣の所持量が負になることは考えなくてよいものとする。このとき、以下の問題に答えなさい。

- (1) この取引の後に消費者が持っている財ベクトルを $(\bar{x}, \bar{m})$ とするとき、 $\bar{m}$ の値を答えなさい。
- (2) 効用関数を $U(x, m) = v(x) + m$ とし、ただし $v$ は区間 $[0, \bar{x}]$ 上では増加的な狭義凹関数であるとする。初期保有 $(0, m^*)$ において $\bar{x}$ の量だけの商品を得るために消費者が支払うことで効用が減少しない最大の支払い額を $w$ とするとき、この値 $w$ と(1)で求めた実際の支払い額 $m^* - \bar{m}$ の差 $w - (m^* - \bar{m})$ の値を答えなさい。
- (3) 消費者が取引によって手持ちを $(0, m^*)$ から $(\bar{x}, \bar{m})$ に変化させたとする。このとき、効用の増加分を計算しなさい。
- (4) より具体的に、 $v(x) = -(\bar{x} - x)^2$ とし、ただし $\bar{x} > \bar{x}$ とする。(3)で計算した値はいくつになるか。
- (5) (4)の $v(x)$ が与えられているとき、予算制約 $px + m = m^*$ の下で効用最大化し、第一財の需要関数 $x(p, m^*)$ を計算しなさい。ただし、 $0 < p \leq 2\bar{x}$ の範囲でだけ考えればよい。
- (6)  $x(p, m^*) = \bar{x}$ を満たす $p$ を $p(\bar{x})$ とするとき、 $p(\bar{x})$ を計算しなさい。
- (7)  $(x, p)$ -平面上に $p(x)$ のグラフを書き、価格 $\bar{p} = p(\bar{x})$ の下で $\bar{x}$ を購入したときの面積を用いた消費者余剰を計算しなさい。
- (8) 問題(7)と(4)の計算結果の値を比較し、大小関係を論じなさい。

2. 逆需要関数 $P(x) = a - bx$ が与えられている複占市場を考える。各企業の費用関数は同一で、企業 $i$ の生産水準を $x_i$ としたとき、その費用は $c(x_i) = cx_i$ で表されるとする。ただし、 $a > c > 0$ かつ $b > 0$ を仮定する。

以下の問いに答えなさい。

- (1) 企業がクールノー型の競争を行っているとする。ナッシュ均衡となる生産水準 $(x_1^*, x_2^*)$ を求めなさい。
- (2) 企業がベルトラン型の競争を行っているとする。ナッシュ均衡となる価格水準 $(p_1^*, p_2^*)$ を求めなさい。
- (3) 問題(1)と(2)のそれぞれの均衡における総余剰を計算しなさい。

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

科目名
ミクロ経済学

実施時期
春季

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

※問題用紙は1枚、解答用紙は3枚です。

※解答する問題ごとに別の解答用紙を使用し、解答する問題番号を問題番号欄に記入すること。

I 次の3問すべてに日本語で解答しなさい。

1. 金額 $x$ を評価する効用関数 $u(x)$ が与えられているとき、なんらかのくじ $L$ についての確実性等価 $CE(L)$ を、 $u(x) = E_L[u]$ が成り立つ $x$ として定義する。ただし、 $E_L$ はくじ $L$ についての期待値を表す記号である。いま、くじ $L$ を確率 $1/2$ で $x = 0$ 、確率 $1/2$ で $x = 100$ を与えるものとする。以下の問いに答えなさい。
  - (1)  $u(x) = \sqrt{x}$ のとき、 $CE(L)$ を計算しなさい。
  - (2)  $0 < a < 1$ となる数 $a$ に対して $u(x) = x^a$ であるときの $CE(L)$ を計算しなさい。
  - (3) 新たなくじ $M$ を、確率 $1/2$ で $x = A$ 、確率 $1/2$ で $x = 64$ を与えるものとする。ただし、(2)で与えた効用関数 $u(x) = x^a$ の下で $CE(L) = CE(M)$ であるとする。このとき、数値 $A$ を $a$ を用いて表しなさい。
  - (4) 上の(3)と同じ状況を考え、ただし効用関数は(1)で与えた関数 $u(x) = \sqrt{x}$ であるとする。 $A$ を求めなさい。
  
2. 一生産物、二生産要素の生産者を考える。生産物の量は $y$ で表し、生産要素の投入量はそれぞれ $x_1, x_2$ で表し、生産技術は生産関数 $f(x_1, x_2) = x_1^{1/2} x_2^{1/4}$ を用いて $y = f(x_1, x_2)$ で与えられるとする。生産物の価格は $p$ とし、生産要素1の価格は1で、生産要素2の価格は2だと仮定するとき、以下の問いに答えなさい。
  - (1) 第二生産要素は短期的には動かせないとし、 $x_2 = 1$ として固定する。このとき、費用最小化問題を解いて生産目標 $y$ に対する費用関数 $c(y)$ を求めなさい。また、可変費用関数 $vc(y)$ と固定費用 $F$ を求めなさい。
  - (2) 上の(1)と同じ条件の下で、利潤最大化問題を解いて最適生産量 $y^*(p)$ とそのときの利潤 $\pi^*(p)$ を求めなさい。
  - (3) 固定した $x_2$ の水準が $z$ というパラメータで与えられたとき、(2)と同様に最適生産量 $y^*(p, z)$ とそのときの利潤 $\pi^*(p, z)$ を求めなさい。
  - (4) (3)で求めた $\pi^*(p, z)$ を最大にする $z$ を求めなさい。
  
3. 二人ゼロ和ゲームを考える。各人の戦略は $A$ か $B$ で表されるとして、プレイヤー1が戦略 $X$ を、プレイヤー2が戦略 $Y$ を選択したときのプレイヤー1の利得を $\pi_{XY}$ と書くことにする。以下の問いに答えなさい。
  - (1)  $\pi_{AA} = 1, \pi_{AB} = -1, \pi_{BA} = -1, \pi_{BB} = -2$ とする。ナッシュ均衡を求めなさい。
  - (2)  $\pi_{AA} = 1, \pi_{AB} = -1, \pi_{BA} = -1$ とし、 $\pi_{BB} = x$ とする。 $(B, B)$ がこのゲームのナッシュ均衡であるための $x$ が満たすべき条件を求めなさい。
  - (3) (2)と同じ状況下で、このゲームに純戦略のナッシュ均衡が存在するための $x$ が満たすべき条件を求めなさい。

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
秋季

科目名
マクロ経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

※問題用紙は2枚、解答用紙は2枚です。

※解答する問題ごとに別の解答用紙を使用し、解答する問題番号を問題番号欄に記入すること。

I 次の2問すべてに日本語で解答しなさい。

1. 次のような IS-LM モデルを考える。

財市場の均衡条件:  $Y = C + I + G$

消費関数:  $C = 0.2(Y - T) + 10$

投資関数:  $I = 100 - r$

貨幣市場の均衡条件:  $\frac{M}{P} = M^D(Y, r)$

貨幣需要関数:  $M^D(Y, r) = 2Y - 10r$

名目貨幣供給量:  $M = 340$

価格水準一定の仮定:  $P = 1$

実質政府支出:  $G = 50$

租税:  $T = 20$

内生変数の定義は以下の通りである:

$C$ : 実質民間消費支出,  $Y$ : 実質国内総生産,  $I$ : 実質民間投資支出,  $r$ : 実質利子率.

- (1) IS 曲線を表す方程式を求め、そのグラフを図示せよ。
- (2) LM 曲線を表す方程式を求め、そのグラフを図示せよ。
- (3) 均衡実質国内総生産と均衡実質利子率の値を求めよ。
- (4) 実質政府支出を10増やして  $G = 60$  にしたとき、均衡実質国内総生産の値はいくつになるか。財政出動  $\Delta G = 10$  の財源を徴税によって確保した場合を想定せよ。
- (5) この財政出動  $\Delta G = 10$  によるクラウディング・アウトによって失われた実質民間投資支出の大きさを求めよ。

2. マクロの生産関数が  $Y(t) = K(t)^{0.5}(A(t)L(t))^{0.5}$ 、資本蓄積方程式が  $\dot{K}(t) = I(t) - 0.1K(t)$  で与えられているソローモデルを考える。  $t$  は時間を表す変数で、0から $+\infty$ に向けて連続的に増加していく。変数の定義は次のとおりである:

$Y(t)$ : 国内総生産,  $K(t)$ : 資本ストック,  $A(t)$ : 技術水準,  $L(t)$ : 労働人口。貯蓄率を5%とし、以下の問いに答えよ。

- (1) 国内総生産の成長率,  $\frac{\dot{Y}(t)}{Y(t)}$ , が1%, 労働人口の成長率,  $\frac{\dot{L}(t)}{L(t)}$ , が-2%, 資本ストックの成長率,  $\frac{\dot{K}(t)}{K(t)}$ , が1% の

とき、技術進歩率,  $\frac{\dot{A}(t)}{A(t)}$  は何%になるか。成長会計恒等式を使って求めよ。

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
秋季

科目名
マクロ経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

- (2) すべての変数が一定の率 (0も含む) で変化している状態のことを定常状態とよぶ。効率単位で測った1人当たり資本ストックを  $\bar{k}(t) \equiv K(t)/(A(t)L(t))$  と定義するとき、定常状態における  $\bar{k}(t)$  の値を求めよ。ただし、労働人口の成長率を2%、技術進歩率を2%として計算せよ。
- (3) 前問 (2) の設定の下で、定常状態における国内総生産  $Y(t)$  の成長率を計算せよ。
- (4) 貯蓄率が増加すると、定常状態における一人当たり GDP,  $\frac{Y(t)}{L(t)}$  の成長率はどのように変化するか。簡単な理由とともに解答せよ。

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
マクロ経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

※問題用紙は2枚、解答用紙は2枚です。

※解答する問題ごとに別の解答用紙を使用し、解答する問題番号を問題番号欄に記入すること。

I 次の2問すべてに日本語で解答しなさい。

1. 次のような IS-LM モデルを考える。

財市場の均衡条件:  $Y = C + I + G$

消費関数:  $C = 0.5Y + 200$

投資関数:  $I = 35/r$

貨幣市場の均衡条件:  $\frac{M}{P} = M^D(Y, r)$

貨幣需要関数:  $M^D(Y, r) = Y/r$

名目貨幣供給量:  $M = 1000$

価格水準一定の仮定:  $P = 1$

実質政府支出:  $G = 100$

内生変数の定義は以下の通りである:

$C$ : 実質民間消費支出,  $Y$ : 実質国内総生産,  $I$ : 実質民間投資支出,  $r$ : 実質利子率。

- (1) IS 曲線を表す方程式を求め、そのグラフを図示せよ。
- (2) LM 曲線を表す方程式を求め、そのグラフを図示せよ。
- (3) 均衡実質国内総生産と均衡実質利子率の値を求めよ。
- (4) 実質民間投資支出の値に影響を与えないようにポリシー・ミックスを行い、実質政府支出を  $\Delta G$ , 名目貨幣供給量を  $\Delta M$  だけ変化させた。政策後の均衡実質国内総生産を800 にするために必要なポリシー・ミックスの規模  $(\Delta G, \Delta M)$  の値を求めよ。

2. マクロの生産関数が  $Y(t) = 10 \min\{K(t), 2L(t)\}$ , 資本蓄積方程式が  $\dot{K}(t) = sY(t)$  で与えられている成長モデルを考える。  $t$  は時間を表す変数で、0から $+\infty$ に向けて連続的に増加していく。変数の定義は次のとおりである。  $Y(t)$ : 国内総生産,  $K(t)$ : 資本ストック,  $L(t)$ : 労働人口。貯蓄率  $s$  を0.1とし、以下の問いに答えよ。

- (1) 資本ストックの成長率,  $\frac{\dot{K}(t)}{K(t)}$  のグラフを、一人当たり資本ストック,  $k(t)$  の関数として描け。

ただし,  $k(t) \equiv \frac{K(t)}{L(t)}$ .

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
マクロ経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

- (2) すべての変数が一定の率 (0 も含む) で変化している状態のことを定常状態とよぶ。労働人口の成長率が  $\frac{L'(t)}{L(t)} = 0.5$  の時, 定常状態における一人当たり資本ストックの値を計算せよ。また定常状態において, 遊休資本か失業のどちらが発生しているか。
- (3) 労働人口の成長率が  $\frac{L'(t)}{L(t)} = 2$  の時, 一人当たり資本はどのような値に収束するか。極限の近傍において遊休資本か失業のどちらが発生しているか。
- (4) 長期的に, 労働雇用率と資本稼働率の両方が 100%になるためには, 人口成長率と一人当たり資本の初期値にどのような条件が成立している必要があるか。

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
秋季

科目名
統計学・計量経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

※問題用紙は4枚、解答用紙は3枚です。

※解答する問題ごとに別の解答用紙を使用し、解答する問題番号を問題番号欄に記入すること。

I 次の3問すべてに日本語で解答しなさい。なお、必要に応じて、付表にある標準正規分布表およびt分布表も参照すること。

1. 確率変数 $Z$ は期待値0、分散1の正規分布に従うとする。確率変数 $Y$ を $Y = 50 + 10Z$ とする。以下の(1)～(4)に答えよ。ただし、解答過程はできるだけ省略せずに、解答に至った過程を明らかにすること。

- (1)  $Y$ の期待値はいくらか。
- (2)  $Y$ の分散はいくらか。
- (3) 変数 $Y$ の値が55以上、65以下となる確率はいくらか。
- (4) 変数 $Z$ と変数 $Y$ の共分散はいくらか。変数 $Z$ と変数 $Y$ の相関係数はいくらか。

2. 変数 $X$ は平均 $\mu$ 、分散 $\sigma^2$ の独立で同一の正規分布に従うとする。標本サイズ $n = 25$ の標本データを入手したとする。有意水準を5%とする。以下の(1)～(4)に答えよ。ただし、解答過程はできるだけ省略せずに、解答に至った過程を明らかにすること。

- (1) 帰無仮説を $\mu = 100$ 、対立仮説を $\mu > 100$ とする。標本平均 $\bar{X}$ は94とし、母分散 $\sigma^2 = 15^2$ とする。検定統計量の値はいくらか。帰無仮説を棄却できるか。また、 $p$ 値はいくらか。
- (2) 帰無仮説を $\mu = 100$ 、対立仮説を $\mu \neq 100$ とする。標本平均 $\bar{X}$ は94とし、母分散 $\sigma^2 = 15^2$ とする。検定統計量の値はいくらか。帰無仮説を棄却できるか。また、 $p$ 値はいくらか。
- (3) 帰無仮説を $\mu = 100$ 、対立仮説を $\mu \neq 100$ とする。標本平均 $\bar{X}$ は94とし、母分散 $\sigma^2$ は未知で、不偏分散 $s^2 = 20^2$ とする。検定統計量の値はいくらか。帰無仮説を棄却できるか。
- (4) 帰無仮説を $\mu = 100$ 、対立仮説を $\mu \neq 100$ とする。標本平均 $\bar{X}$ は94とし、母分散 $\sigma^2$ は未知で、不偏分散 $s^2 = 20^2$ とする。標本平均 $\bar{X}$ の95%信頼区間の上限と下限はいくらか。また、95%信頼区間を根拠とした場合、帰無仮説を棄却できるか。

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
秋季

科目名
統計学・計量経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

3. 統計学の授業における1回あたりの予習・復習時間が統計学のテストの成績に及ぼす影響を検証するために、20人の学生に対して回帰分析を行った。テストの成績(単位は点)を被説明変数(Y)、1回あたりの予習・復習時間(単位は分)を説明変数(X)として回帰分析を行った上で、結果の解釈を具体的に言いなさい。回帰分析を行うに当たっては、回帰モデルの推定の過程を数式等で具体的に示した上で、分析結果の評価も行うこと。回帰モデルの推定結果に関する数値については、小数第2位で示すこと。なお、回帰係数の結果の評価に関しては、付表にあるt分布表を参考にする。

XとYに関する基本統計量等は以下のとおりとする。

	1回あたりの予習・復習時間(X)	テストの成績(Y)
平均	140	70
分散	6082.5	422.5
標準偏差	77.9904	20.5548
XとYの共分散	1445	
回帰係数の標準誤差	0.0269	

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
秋季

科目名
統計学・計量経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

付表

## 1. 標準正規分布表

u	0	0.01	0.02	0.03	0.04	0.05	0.06	0.07	0.08	0.09
0	0.5000	0.4960	0.4920	0.4880	0.4840	0.4801	0.4761	0.4721	0.4681	0.4641
0.1	0.4602	0.4562	0.4522	0.4483	0.4443	0.4404	0.4364	0.4325	0.4286	0.4247
0.2	0.4207	0.4168	0.4129	0.4090	0.4052	0.4013	0.3974	0.3936	0.3897	0.3859
0.3	0.3821	0.3783	0.3745	0.3707	0.3669	0.3632	0.3594	0.3557	0.3520	0.3483
0.4	0.3446	0.3409	0.3372	0.3336	0.3300	0.3264	0.3228	0.3192	0.3156	0.3121
0.5	0.3085	0.3050	0.3015	0.2981	0.2946	0.2912	0.2877	0.2843	0.2810	0.2776
0.6	0.2743	0.2709	0.2676	0.2643	0.2611	0.2578	0.2546	0.2514	0.2483	0.2451
0.7	0.2420	0.2389	0.2358	0.2327	0.2296	0.2266	0.2236	0.2206	0.2177	0.2148
0.8	0.2119	0.2090	0.2061	0.2033	0.2005	0.1977	0.1949	0.1922	0.1894	0.1867
0.9	0.1841	0.1814	0.1788	0.1762	0.1736	0.1711	0.1685	0.1660	0.1635	0.1611
1	0.1587	0.1562	0.1539	0.1515	0.1492	0.1469	0.1446	0.1423	0.1401	0.1379
1.1	0.1357	0.1335	0.1314	0.1292	0.1271	0.1251	0.1230	0.1210	0.1190	0.1170
1.2	0.1151	0.1131	0.1112	0.1093	0.1075	0.1056	0.1038	0.1020	0.1003	0.0985
1.3	0.0968	0.0951	0.0934	0.0918	0.0901	0.0885	0.0869	0.0853	0.0838	0.0823
1.4	0.0808	0.0793	0.0778	0.0764	0.0749	0.0735	0.0721	0.0708	0.0694	0.0681
1.5	0.0668	0.0655	0.0643	0.0630	0.0618	0.0606	0.0594	0.0582	0.0571	0.0559
1.6	0.0548	0.0537	0.0526	0.0516	0.0505	0.0495	0.0485	0.0475	0.0465	0.0455
1.7	0.0446	0.0436	0.0427	0.0418	0.0409	0.0401	0.0392	0.0384	0.0375	0.0367
1.8	0.0359	0.0351	0.0344	0.0336	0.0329	0.0322	0.0314	0.0307	0.0301	0.0294
1.9	0.0287	0.0281	0.0274	0.0268	0.0262	0.0256	0.0250	0.0244	0.0239	0.0233
2	0.0228	0.0222	0.0217	0.0212	0.0207	0.0202	0.0197	0.0192	0.0188	0.0183
2.1	0.0179	0.0174	0.0170	0.0166	0.0162	0.0158	0.0154	0.0150	0.0146	0.0143
2.2	0.0139	0.0136	0.0132	0.0129	0.0125	0.0122	0.0119	0.0116	0.0113	0.0110
2.3	0.0107	0.0104	0.0102	0.0099	0.0096	0.0094	0.0091	0.0089	0.0087	0.0084
2.4	0.0082	0.0080	0.0078	0.0075	0.0073	0.0071	0.0069	0.0068	0.0066	0.0064
2.5	0.0062	0.0060	0.0059	0.0057	0.0055	0.0054	0.0052	0.0051	0.0049	0.0048
2.6	0.0047	0.0045	0.0044	0.0043	0.0041	0.0040	0.0039	0.0038	0.0037	0.0036
2.7	0.0035	0.0034	0.0033	0.0032	0.0031	0.0030	0.0029	0.0028	0.0027	0.0026
2.8	0.0026	0.0025	0.0024	0.0023	0.0023	0.0022	0.0021	0.0021	0.0020	0.0019
2.9	0.0019	0.0018	0.0018	0.0017	0.0016	0.0016	0.0015	0.0015	0.0014	0.0014
3	0.0013	0.0013	0.0013	0.0012	0.0012	0.0011	0.0011	0.0011	0.0010	0.0010
3.1	0.0010	0.0009	0.0009	0.0009	0.0008	0.0008	0.0008	0.0008	0.0007	0.0007
3.2	0.0007	0.0007	0.0006	0.0006	0.0006	0.0006	0.0006	0.0005	0.0005	0.0005
3.3	0.0005	0.0005	0.0005	0.0004	0.0004	0.0004	0.0004	0.0004	0.0004	0.0003
3.4	0.0003	0.0003	0.0003	0.0003	0.0003	0.0003	0.0003	0.0003	0.0003	0.0002
3.5	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002
3.6	0.0002	0.0002	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001
3.7	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001
3.8	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001
3.9	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000

u=0.00~3.99に対する正規分布の上側確率を与える。

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
秋季

科目名
統計学・計量経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

### 2. t分布表

自由度	0.1	0.05	0.025	0.01	0.005	0.0005 (片側)
	0.2	0.1	0.05	0.02	0.01	0.001 (両側)
1	3.078	6.314	12.706	31.821	63.657	636.619
2	1.886	2.920	4.303	6.965	9.925	31.599
3	1.638	2.353	3.182	4.541	5.841	12.924
4	1.533	2.132	2.776	3.747	4.604	8.610
5	1.476	2.015	2.571	3.365	4.032	6.869
6	1.440	1.943	2.447	3.143	3.707	5.959
7	1.415	1.895	2.365	2.998	3.499	5.408
8	1.397	1.860	2.306	2.896	3.355	5.041
9	1.383	1.833	2.262	2.821	3.250	4.781
10	1.372	1.812	2.228	2.764	3.169	4.587
11	1.363	1.796	2.201	2.718	3.106	4.437
12	1.356	1.782	2.179	2.681	3.055	4.318
13	1.350	1.771	2.160	2.650	3.012	4.221
14	1.345	1.761	2.145	2.624	2.977	4.140
15	1.341	1.753	2.131	2.602	2.947	4.073
16	1.337	1.746	2.120	2.583	2.921	4.015
17	1.333	1.740	2.110	2.567	2.898	3.965
18	1.330	1.734	2.101	2.552	2.878	3.922
19	1.328	1.729	2.093	2.539	2.861	3.883
20	1.325	1.725	2.086	2.528	2.845	3.850
21	1.323	1.721	2.080	2.518	2.831	3.819
22	1.321	1.717	2.074	2.508	2.819	3.792
23	1.319	1.714	2.069	2.500	2.807	3.768
24	1.318	1.711	2.064	2.492	2.797	3.745
25	1.316	1.708	2.060	2.485	2.787	3.725
26	1.315	1.706	2.056	2.479	2.779	3.707
27	1.314	1.703	2.052	2.473	2.771	3.690
28	1.313	1.701	2.048	2.467	2.763	3.674
29	1.311	1.699	2.045	2.462	2.756	3.659
30	1.310	1.697	2.042	2.457	2.750	3.646
40	1.303	1.684	2.021	2.423	2.704	3.551
50	1.299	1.676	2.009	2.403	2.678	3.496
60	1.296	1.671	2.000	2.390	2.660	3.460
70	1.294	1.667	1.994	2.381	2.648	3.435
80	1.292	1.664	1.990	2.374	2.639	3.416
90	1.291	1.662	1.987	2.368	2.632	3.402
100	1.290	1.660	1.984	2.364	2.626	3.390
110	1.289	1.659	1.982	2.361	2.621	3.381
120	1.289	1.658	1.980	2.358	2.617	3.373
∞	1.282	1.645	1.960	2.326	2.576	3.291

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
統計学・計量経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

※問題用紙は6枚、解答用紙は6枚です。

※解答する問題ごとに別の解答用紙を使用し、解答する問題番号を問題番号欄に記入すること。

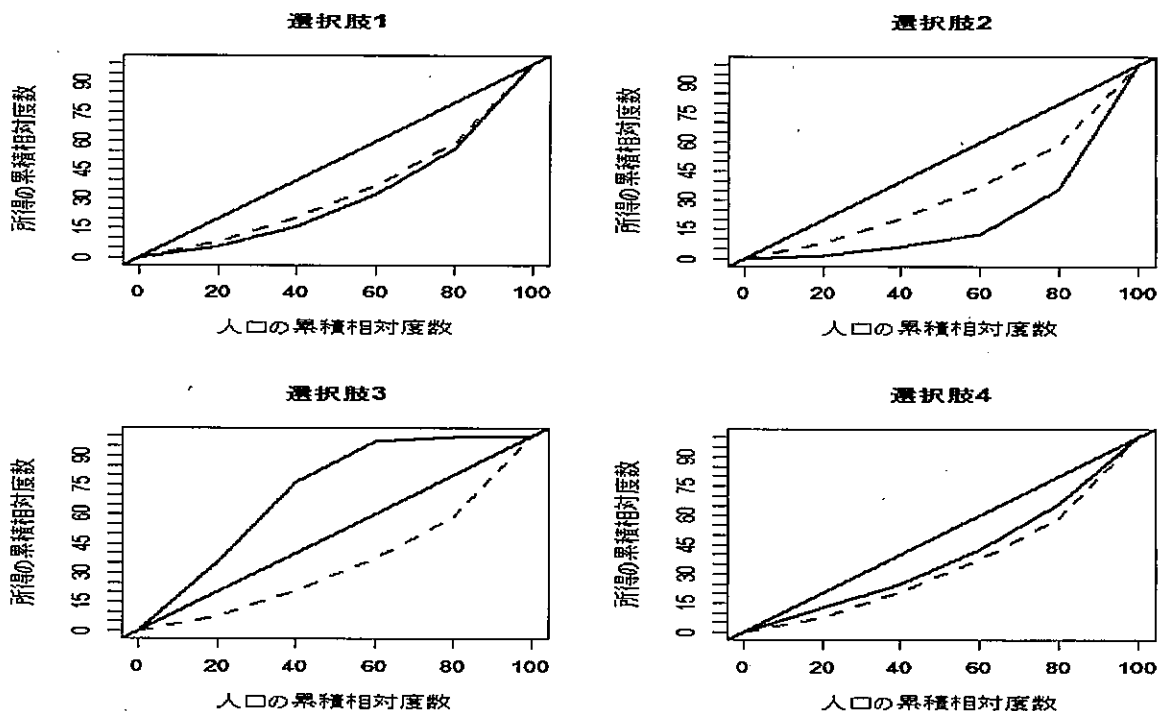
I 次の6問すべてに日本語で解答しなさい。

1. 以下の表は、2013年と2021年の日本における五分位階級別所得割合である。以下の(1)と(2)に答えよ。

(非公開)
-------

出典 独立行政法人労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較 2025」

(1) 以下の図には、横軸を人口の累積相対度数とし、縦軸を所得の累積相対度数として、2013年の日本における所得のローレンツ曲線(灰色の破線の曲線)と完全平等線(斜め45度の直線)が描かれている。黒色の実線の曲線を2021年の日本における所得のローレンツ曲線だとすると、選択肢1~選択肢4の中で、2021年の日本におけるローレンツ曲線として最も適切なものはどれか。選択肢の番号を1つ答えよ。



## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
統計学・計量経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

(2) 2013年の日本における所得のジニ係数と比較して、2021年の日本における所得のジニ係数は大きくなったか、小さくなったか、変わらないか、ローレンツ曲線をもとにして判断せよ。また、そのように判断した根拠（理由）も述べよ。

2. 以下の表は、195か国における完全失業率と世帯年収のジニ係数の基本統計量である。以下の(1)と(2)に答えよ。

(非公開)
-------

出典 CIA World Factbook 2025

注1 失業率1: 完全失業率の生データ

注2 失業率2: 完全失業率の自然対数変換後のデータ

注3 ジニ係数: 世帯年収のジニ係数(%で表示)

(1) 失業率1の分布は、「左にすそが長い、左右対称、右にすそが長い」のいずれと考えるのが最も妥当か。そのように判断した根拠（理由）も述べよ。なお、上記の表に示されている数値のみを根拠として判断すること。

(2) 失業率2とジニ係数の共分散は、1.4である。失業率2とジニ係数のピアソンの積率相関係数の値はいくらか。計算過程を省略せずに答えよ。解答は小数点第4位以下を四捨五入すること。

3. A市では、市民の健康意識を調査するため、市民の一部に対して標本調査を実施した。以下の調査方法の名称は「単純無作為抽出法」、「系統抽出法」、「層化無作為抽出法」、「クラスター抽出法」、「二段抽出法」のどれと考えるのが最も適切か。また、そのように判断した根拠（理由）も述べよ。

調査方法: 「市内の集落(区・町・村)のそれぞれから無作為に市民を選んで、調査票を配布した。」

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
統計学・計量経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

4. 2025年12月のNHK世論調査では、1192人から回答を得て、高市内閣を支持すると答えた人は763人だった。日本の全有権者の中で高市内閣の支持率はいくらだったかを推定するために、95%信頼区間を  $A \pm B \times \sqrt{(C \times D)/E}$  として構築する。A, B, C, D, Eの値を答えよ。母比率を  $p$ 、標本比率を  $\hat{p}$ 、標本サイズを  $n$  として、信頼区間の式を明示したうえで解答過程を省略せずに答えよ。ただし、正規分布における信頼度95%の信頼係数を1.96とする。解答は小数点第4位以下を四捨五入すること。

注：解答に支障のない範囲で、NHK世論調査の一部の情報を改変して出題した。

5. 25人の学生が受講している統計学の授業において、期末試験を実施した。教員の事前の想定では、平均点は70点になるように試験を作成した。実際には、平均点は65点、標準偏差は10点だった。なお、標準偏差は不偏分散の正の平方根として計算した。25人全員が受験したとし、試験の点数の分布は正規分布に従っていると考える。この25人はこの試験を受け得る無数の学生からの無作為標本と考える。平均点65点は、想定した70点と統計的に異なるかどうかを検定したいとする。帰無仮説を平均点 = 70点とし、対立仮説を平均点  $\neq$  70点として、1%の有意水準で平均点は70点と異なるかどうか検定せよ。計算過程も省略せずに答えよ。なお、必要に応じて  $t$  分布表や  $F$  分布表を参照すること。

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
統計学・計量経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

6. 従業員に関するデータを用いて、月次の勤め先収入に影響を与える要因について、重回帰モデルによる回帰分析を行った。データの中には、属性として月次の勤め先収入(単位:円)、年齢(単位:歳)、教育年数(単位:年)が含まれているものとする。これらの属性を用いた重回帰分析の結果は、以下のとおりとなった。

### 分析結果

変数	係数	標準誤差	t値
年齢	9405.825	5269.957	
教育年数	90174.845	24519.491	3.678
定数	-1153444.969	418017.661	-2.759
$R^2$	0.412		
$Adj.R^2$	0.373		
F	10.507		
自由度	30		

次の問いに答えなさい。

- (1) 分析に使用した従業員に関するデータのサンプルサイズを求めなさい。
- (2) 年齢におけるt値を計算しなさい。なお、四捨五入して小数第3位で表示すること。
- (3) 年齢が40歳で教育年数が16年の場合における月次の勤め先収入の予測値を計測しなさい。なお、四捨五入して整数の値で表示すること。
- (4) 教育年数について、回帰係数の95%信頼区間の下限值と上限値を求めなさい。四捨五入して小数第3位で表示すること。なお、計算にあたってはt分布表を参考にする。
- (5) 重回帰モデル全体および回帰係数の有意性に関する検定統計量を用いた上で、分析結果の解釈を具体的に行いなさい。なお、t分布表やF分布表も参考にする。

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
統計学・計量経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

t分布表

自由度	0.1	0.05	0.025	0.01	0.005	0.0005	(片側)
	0.2	0.1	0.05	0.02	0.01	0.001	(両側)
1	3.078	6.314	12.706	31.821	63.657	636.619	
2	1.886	2.920	4.303	6.965	9.925	31.599	
3	1.638	2.353	3.182	4.541	5.841	12.924	
4	1.533	2.132	2.776	3.747	4.604	8.610	
5	1.476	2.015	2.571	3.365	4.032	6.869	
6	1.440	1.943	2.447	3.143	3.707	5.959	
7	1.415	1.895	2.365	2.998	3.499	5.408	
8	1.397	1.860	2.306	2.896	3.355	5.041	
9	1.383	1.833	2.262	2.821	3.250	4.781	
10	1.372	1.812	2.228	2.764	3.169	4.587	
11	1.363	1.796	2.201	2.718	3.106	4.437	
12	1.356	1.782	2.179	2.681	3.055	4.318	
13	1.350	1.771	2.160	2.650	3.012	4.221	
14	1.345	1.761	2.145	2.624	2.977	4.140	
15	1.341	1.753	2.131	2.602	2.947	4.073	
16	1.337	1.746	2.120	2.583	2.921	4.015	
17	1.333	1.740	2.110	2.567	2.898	3.965	
18	1.330	1.734	2.101	2.552	2.878	3.922	
19	1.328	1.729	2.093	2.539	2.861	3.883	
20	1.325	1.725	2.086	2.528	2.845	3.850	
21	1.323	1.721	2.080	2.518	2.831	3.819	
22	1.321	1.717	2.074	2.508	2.819	3.792	
23	1.319	1.714	2.069	2.500	2.807	3.768	
24	1.318	1.711	2.064	2.492	2.797	3.745	
25	1.316	1.708	2.060	2.485	2.787	3.725	
26	1.315	1.706	2.056	2.479	2.779	3.707	
27	1.314	1.703	2.052	2.473	2.771	3.690	
28	1.313	1.701	2.048	2.467	2.763	3.674	
29	1.311	1.699	2.045	2.462	2.756	3.659	
30	1.310	1.697	2.042	2.457	2.750	3.646	
40	1.303	1.684	2.021	2.423	2.704	3.551	
50	1.299	1.676	2.009	2.403	2.678	3.496	
60	1.296	1.671	2.000	2.390	2.660	3.460	
70	1.294	1.667	1.994	2.381	2.648	3.435	
80	1.292	1.664	1.990	2.374	2.639	3.416	
90	1.291	1.662	1.987	2.368	2.632	3.402	
100	1.290	1.660	1.984	2.364	2.626	3.390	
110	1.289	1.659	1.982	2.361	2.621	3.381	
120	1.289	1.658	1.980	2.358	2.617	3.373	
∞	1.282	1.645	1.960	2.326	2.576	3.291	

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
統計学・計量経済学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

F分布表 ( $\alpha=0.05$ )

第2自由度 $\nu_2$	第1自由度 $\nu_1$															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	15	20	30	$\infty$
1	161.4	199.5	215.7	224.6	230.2	234	236.8	238.9	240.5	241.9	243	243.9	245.9	248	250.1	254.3
2	18.51	19	19.16	19.25	19.3	19.33	19.35	19.37	19.38	19.4	19.4	19.41	19.43	19.45	19.46	19.5
3	10.13	9.55	9.28	9.12	9.01	8.94	8.89	8.85	8.81	8.79	8.76	8.74	8.7	8.66	8.62	8.53
4	7.71	6.94	6.59	6.39	6.26	6.16	6.09	6.04	6	5.96	5.94	5.91	5.86	5.8	5.75	5.63
5	6.61	5.79	5.41	5.19	5.05	4.95	4.88	4.82	4.77	4.74	4.7	4.68	4.62	4.56	4.5	4.36
6	5.99	5.14	4.76	4.53	4.39	4.28	4.21	4.15	4.1	4.06	4.03	4	3.94	3.87	3.81	3.67
7	5.59	4.74	4.35	4.12	3.97	3.87	3.79	3.73	3.68	3.64	3.6	3.57	3.51	3.44	3.38	3.23
8	5.32	4.46	4.07	3.84	3.69	3.58	3.5	3.44	3.39	3.35	3.31	3.28	3.22	3.15	3.08	2.93
9	5.12	4.26	3.86	3.63	3.48	3.37	3.29	3.23	3.18	3.14	3.1	3.07	3.01	2.94	2.86	2.71
10	4.96	4.1	3.71	3.48	3.33	3.22	3.14	3.07	3.02	2.98	2.94	2.91	2.85	2.77	2.7	2.54
11	4.84	3.98	3.59	3.36	3.2	3.09	3.01	2.95	2.9	2.85	2.82	2.79	2.72	2.65	2.57	2.4
12	4.75	3.89	3.49	3.26	3.11	3	2.91	2.85	2.8	2.75	2.72	2.69	2.62	2.54	2.47	2.3
13	4.67	3.81	3.41	3.18	3.03	2.92	2.83	2.77	2.71	2.67	2.63	2.6	2.53	2.46	2.38	2.21
14	4.6	3.74	3.34	3.11	2.96	2.85	2.76	2.7	2.65	2.6	2.57	2.53	2.46	2.39	2.31	2.13
15	4.54	3.68	3.29	3.06	2.9	2.79	2.71	2.64	2.59	2.54	2.51	2.48	2.4	2.33	2.25	2.07
16	4.49	3.63	3.24	3.01	2.85	2.74	2.66	2.59	2.54	2.49	2.46	2.42	2.35	2.28	2.19	2.01
17	4.45	3.59	3.2	2.96	2.81	2.7	2.61	2.55	2.49	2.45	2.41	2.38	2.31	2.23	2.15	1.96
18	4.41	3.55	3.16	2.93	2.77	2.66	2.58	2.51	2.46	2.41	2.37	2.34	2.27	2.19	2.11	1.92
19	4.38	3.52	3.13	2.9	2.74	2.63	2.54	2.48	2.42	2.38	2.34	2.31	2.23	2.16	2.07	1.88
20	4.35	3.49	3.1	2.87	2.71	2.6	2.51	2.45	2.39	2.35	2.31	2.28	2.2	2.12	2.04	1.84
21	4.32	3.47	3.07	2.84	2.68	2.57	2.49	2.42	2.37	2.32	2.28	2.25	2.18	2.1	2.01	1.81
22	4.3	3.44	3.05	2.82	2.66	2.55	2.46	2.4	2.34	2.3	2.26	2.23	2.15	2.07	1.98	1.78
23	4.28	3.42	3.03	2.8	2.64	2.53	2.44	2.37	2.32	2.27	2.24	2.2	2.13	2.05	1.96	1.76
24	4.26	3.4	3.01	2.78	2.62	2.51	2.42	2.36	2.3	2.25	2.22	2.18	2.11	2.03	1.94	1.73
25	4.24	3.39	2.99	2.76	2.6	2.49	2.4	2.34	2.28	2.24	2.2	2.16	2.09	2.01	1.92	1.71
26	4.23	3.37	2.98	2.74	2.59	2.47	2.39	2.32	2.27	2.22	2.18	2.15	2.07	1.99	1.9	1.69
27	4.21	3.35	2.96	2.73	2.57	2.46	2.37	2.31	2.25	2.2	2.17	2.13	2.06	1.97	1.88	1.67
28	4.2	3.34	2.95	2.71	2.56	2.45	2.36	2.29	2.24	2.19	2.15	2.12	2.04	1.96	1.87	1.65
29	4.18	3.33	2.93	2.7	2.55	2.43	2.35	2.28	2.22	2.18	2.14	2.1	2.03	1.94	1.85	1.64
30	4.17	3.32	2.92	2.69	2.53	2.42	2.33	2.27	2.21	2.16	2.13	2.09	2.01	1.93	1.84	1.62
40	4.08	3.23	2.84	2.61	2.45	2.34	2.25	2.18	2.12	2.08	2.04	2	1.92	1.84	1.74	1.51
60	4	3.15	2.76	2.53	2.37	2.25	2.17	2.1	2.04	1.99	1.95	1.92	1.84	1.75	1.65	1.39
120	3.92	3.07	2.68	2.45	2.29	2.18	2.09	2.02	1.96	1.91	1.87	1.83	1.75	1.66	1.55	1.25
$\infty$	3.84	3	2.6	2.37	2.21	2.1	2.01	1.94	1.88	1.83	1.79	1.75	1.67	1.57	1.46	1

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
秋季

科目名
ポリティカルエコノミー

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

※問題用紙は1枚、解答用紙は1枚です。

※解答する問題番号を問題番号欄に記入すること。2問選択した場合は、選択した問題すべてを採点対象外とする。

I 次の2問のうち1問を選択して日本語で解答しなさい。

1. 剰余価値を生むことによって自己増殖する価値の運動体としての資本が、労働力を商品として購入する資本として投下される場合に、労働力商品の使用価値と価値は、どのように捉えればよいのか。つぎのキーワードを必ず1回は使用して(何度使用しても構わない)、労働力商品の使用価値と価値について論述するとともに、労働力商品の価値と剰余価値との関係についても説明しなさい。

キーワード: 資本の生産過程、具体的有用労働、抽象的人間労働、新たな生産物の生産、生産手段の価値移転、新たな価値の生産、労働力の再生産費、賃金

2. 利潤率の傾向的低落法則に基づくと、資本が労働生産性を上昇させようとする競争は、社会的総資本の利潤率を低下させるという結果をもたらす。この仕組みについて、個別資本が競争をする必然性、資本家が労働生産性を上昇させるとはどういうことなのか、そしてそれがなぜ一般的利潤率を低下させるのかの3点を踏まえて、分かりやすく説明しなさい。

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

科目名
経済学史

実施時期
春季

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

※問題用紙は1枚、解答用紙は1枚です。

※解答する問題番号を解答用紙の問題番号欄に記入すること。

I 次の2問のうち1問を選んで解答しなさい。

1. アダム・スミスが『道徳感情論』で論じた「同感」の原理をふまえながら、『国富論』の「商業社会」の前提となる人間や「商業社会」における競争に関するスミスの見方を詳しく説明しなさい。
2. フリードマンの自然失業率仮説とそれがいかなる意味でケインズ以前の古典派への回帰となっているかについて、グラフも用いながら詳しく説明しなさい。

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
経営学

入試方式
一般・外国人留学生入学試験

※問題用紙は1枚、解答用紙は2枚です。

※解答する問題ごとに別の解答用紙を使用し、解答する問題番号を問題番号欄に記入すること。

I 以下の1～3の問題について、1は必ず解答し、2および3のうちひとつを選択して解答しなさい。

## 1. (必答)

マズローの欲求段階説は、従業員の動機づけを理解するうえで代表的な理論として広く用いられている。欲求段階説の内容を説明したうえで、企業組織において管理者が従業員のモチベーションを高めるために、この理論をどのように活用し得るのかを論じなさい。さらに、実務における活用上の限界についても述べなさい。

## 2. (選択)

現代マーケティング論では、マーケティング・ミックス(4P)は、環境変化に伴ってその概念的枠組みや実践的意義が再検討されており、特に、デジタル環境における消費者行動の変容、価値共創の重要性、企業と消費者の相互作用の多様化などにより、4Pの各要素(Product, Price, Place, Promotion)を単独で最適化する従来のアプローチには限界があるとも指摘されている。そこで、以下の項目に触れながら、現代のマーケティング・ミックスについて、それを構成する諸要素の相互的な補完性や整合性の観点から論じなさい。

- 各要素の「個別最適」ではなく「全体最適」が重視される理由。
- デジタル環境下(DX化)における各要素の相互関係の変化。
- マーケティング・ミックスの再構築が必要とされる理論的背景(サービス・ドミナント・ロジック、企業と顧客との価値共創、顧客体験価値、リレーションシップ・マーケティングなど)。

## 3. (選択)

高度経済成長期を中心に形成された日本的経営の「三種の神器」について概説した上で、それがどのような経済的・制度的前提のもとで合理的に機能していたのかを説明しなさい。さらに、その前提が変化する中でどのような限界や変容が生じているのかについて論述しなさい。

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
小論文

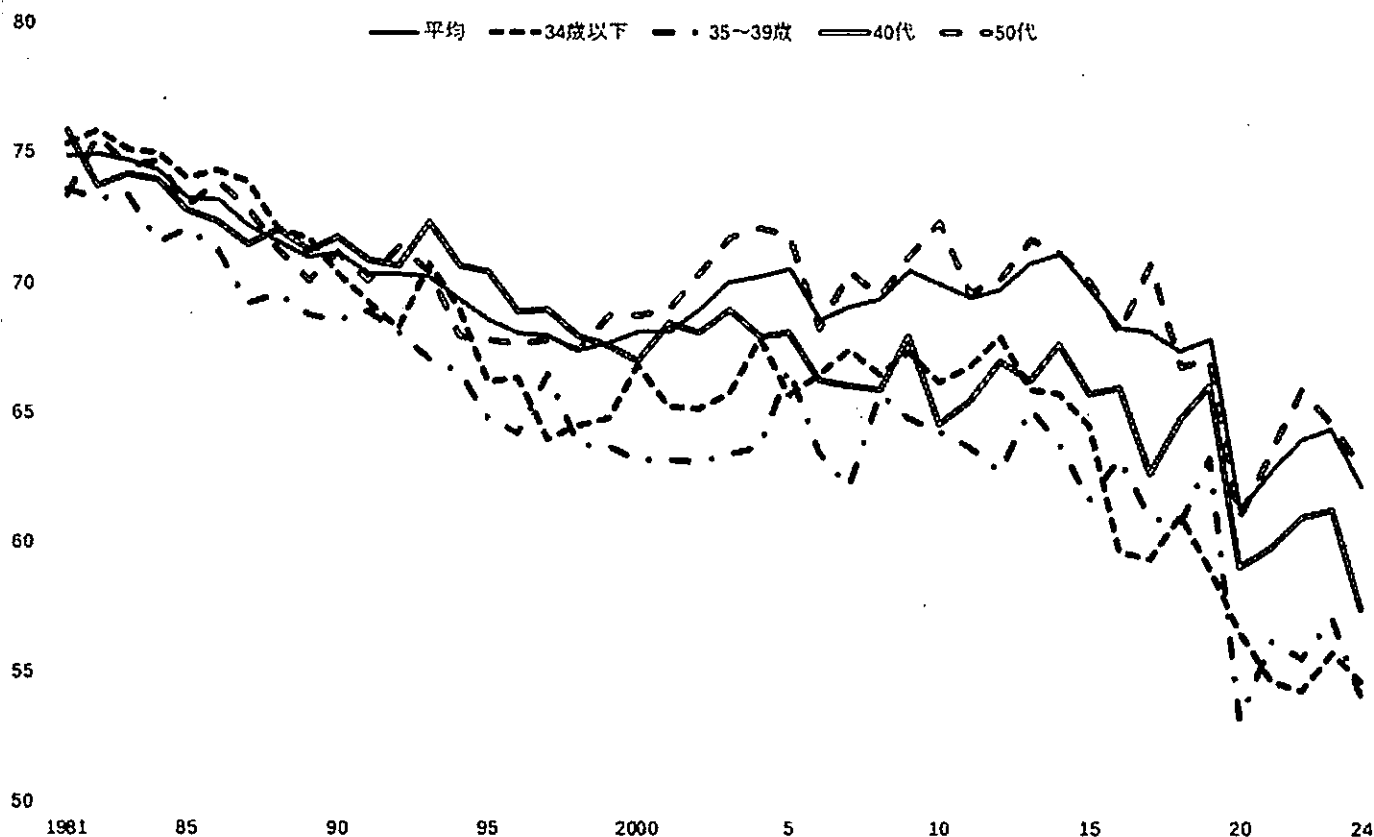
入試方式
社会人特別入学試験

※問題用紙は2枚、解答用紙は1枚です。

I 次の問いに日本語で解答しなさい。

- 図1と図2を参考に、消費性向が低下している要因と日本経済に対する影響について詳細に説明してください。その上で、政府はどのような政策を打つべきかに関してあなたの見解を述べてください。

図1 消費性向の推移(年齢別)



出所：総務省統計局「家計調査年報」(各年)

注：二人以上勤労者世帯の数値

# 2026年度 大学院入学試験問題

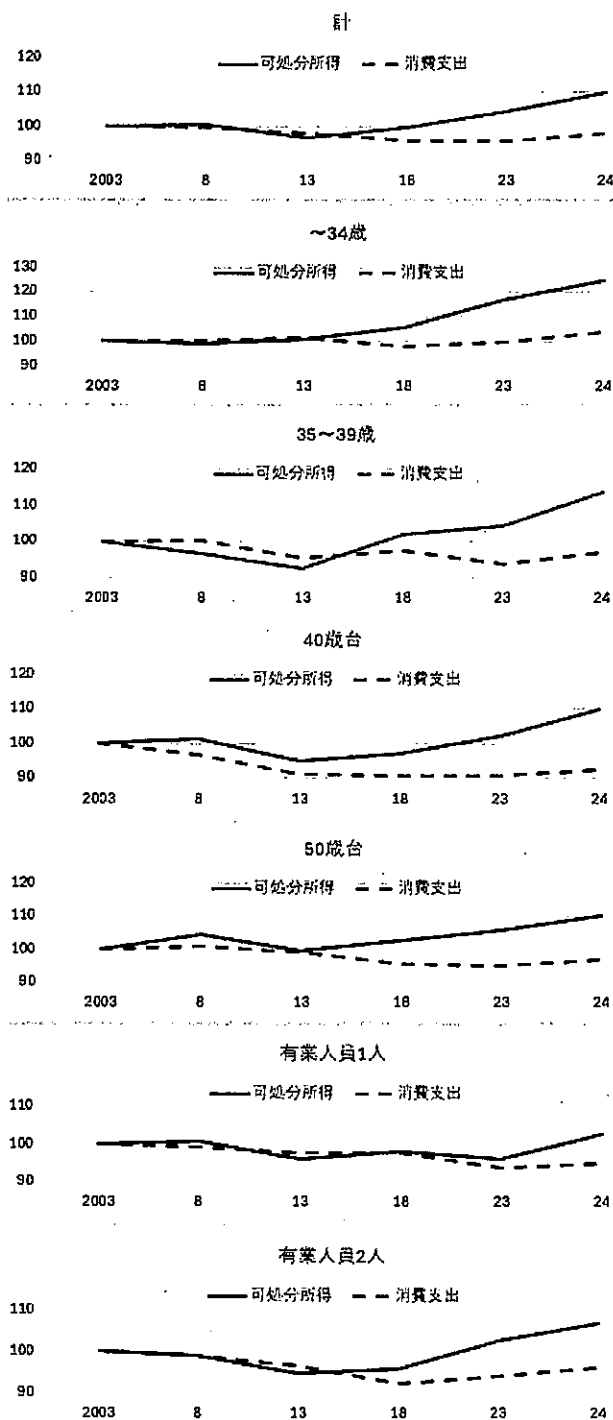
研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士前期

実施時期
春季

科目名
小論文

入試方式
社会人特別入学試験

図2 所得と消費の動向 (2003年=100)



出所：総務省統計局「家計調査年報」(各年)

注：二人以上勤労者世帯についての数値

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士後期

実施時期
春季

科目名
英語

入試方式
一般入学試験

※問題用紙は 2 枚、解答用紙は 2 枚です。

※解答する問題ごとに別の解答用紙を使用し、解答する問題番号を問題番号欄に記入すること。

※以下の問題の I および II の両方に解答しなさい。

I 以下の英文を読んで設問に答えなさい。

以下、本文 29 行 (非公開)

注: 下記資料の一部分を抜粋。引用文献等の記載を除いてある。イギリス英語のため、-ize が -ise と綴られている。

資料: Boronovi, F. et al., 2025, "AI Adoption in the Education System: International Insights and Policy Considerations for Italy," *OECD Artificial Intelligence Papers*, No. 52, Paris: OECD Publishing.

1. 下線部①について、本文全体の文脈を踏まえ、その意味を 80~120 字程度の日本語で説明しなさい。
2. 下線部②について、なぜ教育・職業訓練分野における AI 利用が「高リスク」と位置づけられているのか、また、この位置づけが教育政策や学校現場にどのような含意(インプリケーション)を持つのかについて、本文の内容にもとづいて 120~150 字程度の日本語で述べなさい。
3. 以下の A から D までの 4 つの記述の中から、本文全体の中心的な議論をもっとも適切に表現しているものを 1 つ選びなさい。
  - A. AI tools are rapidly and uniformly transforming education systems across OECD countries, leading to a consensus on best practices and regulatory frameworks.
  - B. The expansion of digital technologies and AI in education has highlighted both transformative potential and significant concerns, while national approaches and regulatory responses remain highly uneven.
  - C. Concerns about children's cognitive and social development have resulted in a widespread rejection of AI and digital technologies in European education systems.
  - D. OECD countries have largely failed to address AI in education strategies, showing little policy interest in digital transformation.

II あなたがこれまで取り組んできた研究の内容とその社会的意義について、150 ワード(words)程度の英文で説明しなさい。

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士後期

実施時期
春季

科目名
経済学

入試方式
外国人留学生入学試験

※問題用紙は 3 枚、解答用紙は 1 枚です(追加が必要なら申し出てください If you need additional answer sheets, please let us know.)。  
 ※解答する問題を選択し、解答する問題番号を問題番号欄に記入すること。

*Select one out of the following problems, I, II, III, and IV, and then solve it in either English or Japanese.*

## I Ramsey Optimal Taxation with Two Goods (Inverse Elasticity Rule)

- Consider a one-period static economy with two consumption goods  $x_1$  and  $x_2$ .  
 A representative consumer has utility:  $U(x_1, x_2)$ , where the utility function satisfies the usual properties (positive marginal utilities, diminishing marginal utilities, quasi-concavity, etc.).
- The producer (pre-tax) prices of both goods are normalized to 1. The government imposes ad-valorem indirect taxes  $t_i$  on good  $i$  ( $i = 1, 2$ ). Hence, the consumer prices (tax-inclusive prices) faced by the household are:  
 $p_i = 1 + t_i$  ( $i = 1, 2$ ).
- The representative consumer faces the budget constraint:  $p_1x_1 + p_2x_2 = \bar{Y}$ , where  $\bar{Y} > 0$  is exogenously given nominal income.
- The government must raise a given amount of tax revenue  $\bar{R} > 0$ . Tax revenue is given by  $\bar{R}(t_1, t_2) = t_1x_1(p_1, p_2) + t_2x_2(p_1, p_2)$ , where  $x_i(p_1, p_2)$  is the (Marshallian) demand for good  $i$  implied by the consumer's utility maximization.

**Answer the following questions.**

### 1. Formulate the Ramsey optimal taxation problem. (20/100)

The government chooses the tax rates  $(t_1, t_2)$  so as to maximize the consumer's utility, subject to the requirement that tax revenue equals  $\bar{R}$ .

Write down the government's optimization problem and construct the corresponding Lagrangian.

(You do not need to solve the first-order conditions at this stage.)

### 2. Derive the "inverse elasticity rule" for optimal tax rates. (40/100)

Let the own-price elasticity of demand for good (i) be  $\varepsilon_i = \frac{\partial x_i p_i}{\partial p_i x_i}$  ( $i = 1, 2$ ) with ( $\varepsilon_i < 0$ ).

Assume that cross-price effects are negligible (or can be ignored), so that each demand primarily depends on its own price. Show that the optimal tax rates satisfy a condition of the form:  $\frac{t_i}{1+t_i} \propto \frac{1}{|\varepsilon_i|}$  where  $\propto$  denotes proportionality, and the proportionality constant depends on the revenue requirement and the Lagrange multiplier. This condition is known as the inverse elasticity rule.

# 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士後期

科目名
経済学

実施時期
春季

入試方式
外国人留学生入学試験

### 3. Explain the economic meaning of the inverse elasticity rule. (40/100)

Explain why it is desirable (from an efficiency point of view) to impose higher tax rates on goods with smaller (absolute) price elasticities of demand, and lower tax rates on goods with larger elasticities.

## II Time inconsistency and commitment problem

Consider the following simplified Barro–Gordon–type model.

Phillips curve:

$$y = y^* + \alpha(\pi - \pi^e), \text{ with } \alpha > 0$$

Loss function of the policy-maker (government or central bank):

$$L = \frac{1}{2} [(\pi - \pi^*)^2 + \lambda(y - ky^*)^2], \text{ with } \lambda > 0 \text{ and } k > 1,$$

where  $\pi$  is the actual inflation rate,  $\pi^e$  is private sector expected inflation,  $y^*$  is the equilibrium level of output,  $ky^*$  is the output level desired by the policy-maker, and  $\pi^*$  is the inflation target.

The private sector forms rational expectations. Assuming, for simplicity, that  $\pi^* = 0$ , answer the following questions.

### 1. Derive the equilibrium outcome with rational expectation under discretionary policy. (40/100)

Taking the expected inflation rate  $\pi^e$  as given, derive the inflation rate chosen by the policy-maker under discretionary optimization. Using this result, determine the equilibrium inflation rate and output level under rational expectations.

Explain why discretionary policy leads to time inconsistency in this model.

### 2. Derive the equilibrium outcome with policy-maker's commitment. (40/100)

Suppose the policy-maker can commit ex ante to an inflation rate  $\pi = \pi^*$ .

1. Characterize the resulting equilibrium.
2. Compare the outcomes under commitment and discretion in terms of inflation, output, and social loss.

### 3. Explain the difference. (20/100)

Explain why a rule-based policy may dominate discretionary policy in this framework and interpret central bank independence in the context of the above model as a commitment mechanism.

## 2026年度 大学院入学試験問題

研究科	専攻	課程
経済学	経済学	博士後期

実施時期
春季

科目名
経済学

入試方式
外国人留学生入学試験

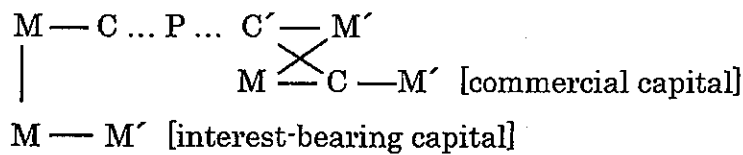
### III The results of capitalist competition

Explain how competition among individual capitals to pursue extra surplus-value, at the level of society as a whole, leads to the production of relative surplus-value, while at the same time producing a relative surplus population.

### IV Industrial capital, commercial capital, and interest-bearing capital

The relationship between industrial capital, commercial capital, and interest-bearing capital can be expressed using the following symbols.

[industrial capital]



※The letter **M** represents money and the letter **C** represents goods.

**C'** and **M'** represent goods and money that contain value increases.

The letter **P** stands for production.

Explain the relationships between various capitals shown in the diagram, and explain the relationships between surplus-value, profit, commercial profit, and interest.